

# みんな楽しめるさくらフェスに！



さくらフェスみの～れ実行委員長

しらい るっこ  
**白井 瑠津子** さん

「また来年も行きたいと思ってもらえるようなさくらフェスにしたい」と笑顔で話す白井さん

みの～れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ

No.152

立春を過ぎ、寒さが続く中にも柔らかな陽ざしに春の気配を感じます。光の春とも呼ばれるそうです。白梅や紅梅が優しい香りを漂わせていますね。クリスマスローズも咲きはじめ春の足音がどんどん近づいてきました。待ち遠しいなあ。今回は4月11日に開催される『さくらフェスティバル2020』のみの～れ実行委員長で石岡市にお住いの白井瑠津子さん取材します。

白井さんがみの～れに関わるようになったきっかけを聞いてみると、「5年前にさくらフェスの実行委員をしていた小学校の同級生に声をかけてもらい手伝ったのがきっかけです。実行委員としてはもう3年目です」と話してくれました。

今回、4年ぶりに女性の実行委員長に決まった白井さんは、「私がやっても大丈夫かな？本当に私でいいのか？という不安はありました。職員の方や、委員の人たちがみんな温かくて良い人たちばかりなのでやっていけると思いました。今年は実行委員の年齢層の幅が広くて学生からお孫さんのいる方までいます。世代は違うけれどいろいろと意見を出し合っているの目標に向かっていけるのは良いことだと思います。今年は『わ』がテーマです。平和の和、昭和の和・令和の和・五輪の輪などたくさん『わ』に思いを込めました。例年だと3つか4つのチームに分かれていたのですが今年は2つに分かれて、風のホールとホワイエ野外に分かれます。それぞれのチームに経験者や新しく

入ったメンバーが上手く均等に分かれて、新しいメンバーもみんな意見を出してくれるから楽しいです。大人の文化祭みたいで、きつとやりたいことがたくさんあるんですよ。山口館長の『文化ホールに壁など無くてたくさんの人に来て欲しい』という思いをみんな大切にしているんですよ。さくらフェスに来る人も来てもらう側も、みんなが楽しめるフェスティバルなので、また今年もお手伝いしてみようとか、来てみようとかそういう気持ちになるんですよ。楽しいんですけど準備していく中で日にちが迫ってくると焦ります（笑）」と素敵な笑顔で話してくれました。

「私は音楽の指導をやりながら、茨城町の幼稚園で働いています。母が音楽教室をやっていて、私もやってみようと思つて高校も大学も音楽の勉強をしました。ピアノを弾いたり、歌を歌ったりするのが趣味です。それから、音楽フェスに行ったりしますね。幼稚園の子も達もさくらフェスに来てくれて、『えっ、先生、なんでここにいるの？』って声をかけ

られたりもします」と白井さん。今年のさくらフェスの見どころを聞くと「風のホールはタイムトラベルをイメージして、楽しめる今の子ども達知らない昔遊びなどをしたり、思い出に持って帰れるような物を作ったりします。ホワイエはリサイクル工作体験、野外では移動動物園や電動機関車も走る予定です。ときめき隊の協力もあるのでみんなが一つになるといいなあ」とわくわく感が伝わってきました。

さくらフェスについて思いを聞いてみました。「私は雨女なんです。お天気は大丈夫かなあ？初めて来てくれる方も毎年来てくれる方も、小さな子どもから大人まで楽しめるフェスティバルにしたいと思います。毎年さくらフェスは終わってもすぐ来年の事を考えるので終わらないさくらフェスと言われています（笑）」。

4月11日は、四季の里が桜色に染まりたくさんイベントを用意して皆さんをお待ちしております。ぜひ、遊びに来てくださいね。

（藤田佐知子）